平成 27 年 度

新庁舎建設に関する特別委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査
-

平成 28 年 2 月 18 日（木曜日）

新庁舎建設に関する特別委員会会議録

企画振興部長 福永知規君

平成28年2月18日 木曜日

午後1時34分開議

午後2時55分閉議（実時間81分）

○記録担当書記 小川孝浩君
岩崎和乎君

（午後1時34分 開会）

○本日の会議に付した案件

1. 新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査
（委員会提出資料の公開について）
（本庁方式に対する市の見解について）
（基本構想（たたき台）修正案について）

○副委員長（幸村香代子君） それでは、定刻となり定足数に達しましたので、ただいまから新庁舎建設に関する特別委員会を開会いたします。

◎新庁舎の機能、規模、予算など新庁舎建設に関する諸問題の調査

○副委員長（幸村香代子君） 委員会開会の冒頭に当たり、委員長より確認をさせていただきます。

本日は3月定例会直前の委員会開催であり、すでに3月定例会に上程予定の議案説明も行われております。

そこで、本日の委員会での調査については、議案の事前審査に当たらない範囲で行いたいと思いますので、各委員におかれましては、その点を御留意いただきますようお願いいたします。

それでは、まず今回はですね、委員会は、3点の項目について執行部のほうに持ち帰りをお願いしておりました。それで、まず委員会提出資料の公開について、これを議題としたいと思います。

まず、執行部からの説明を求めます。谷脇財政課主幹お願いいたします。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。財政課の谷脇です。よろしく願いいたします。

先だって、フォーラム八代への資料提供について、それが情報公開といいますか、委員会の中でまだ確認されていないのにかという御質問がございました件についてお答えしま

○本日の会議に出席した者

副委員長 幸村香代子君
委員 亀田英雄君
委員 友枝和明君
委員 成松由紀夫君
委員 野崎伸也君
委員 橋本幸一君
委員 橋本隆一君
委員 古嶋津義君
委員 増田一喜君
委員 村上光則君
委員 山本幸廣君
委員 矢本善彦君

※欠席委員 前垣信三君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

財務部長 岩本博文君
財務部政策調整
審議員 松村浩君
財政課主幹
（新庁舎建設担当） 谷脇信博君

す。

八代市情報公開条例では、市民の知る権利を尊重し、本市の保有する公文書の公開を請求する権利を定め、市政運営の公平性、公開性の向上を図り、市政の諸活動を市民に説明する市の責任が全うされることを目的としております。

つまり、個人もしくは団体に不利益を与えない行政文書、——これは行政機関の職員が職務上作成した資料のことをいいます、は市民の請求の有無にかかわらず、任意的または積極的に公開する制度であります。

また、議会で作られました資料につきましては、それぞれの所管の委員長が判断されますが、執行部が作成する資料につきましては、担当部署の判断に委ねられております。

したがいまして、先日のフォーラム八代からの新聞記事の真相についての質問に対し、情報公開条例の目的ののっとり、市民の市政に対する理解と信頼を深め、市政への参加を促進し、公正で民主的な市政の推進に資する資料を提供したものでございます。

以上です。

○副委員長（幸村香代子君） はい。説明をいただきましたけれども、今の御回答で質疑、御意見等はございませんでしょうか。

○委員（野崎伸也君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、野崎委員。

○委員（野崎伸也君） はい。今、情報公開条例の関係でお話されましたけれども、済みません、私もろ覚えで申しわけないんですけど、あったかどうかわからぬ、ちょっとろ覚えで申しわけない質問になるかもしれぬんですけど、市民に混乱を生じさせないようになっていう一文はなかったですかね。あったかなかったでよろしいです。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 谷脇財政課主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。正式には覚えておりません。

○委員（野崎伸也君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、野崎委員。

○委員（野崎伸也君） 後から、じゃあ確認します。

○副委員長（幸村香代子君） はい、では後から確認をとということをお願いいたします。

ほかにございませんか。

○委員（野崎伸也君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、野崎委員。

○委員（野崎伸也君） 今ほど谷脇さんのほうからですね、正式なやつにのっとり公開をしましたというような話がございました。それはそれとしていいのかなと、了解をしましたちゅうか、聞き置きましたっていう話なんですけど、この間は持ち帰られる前に谷脇さんといろいろ、質疑したんですけど、そのときに委員会の中の資料っていうのは全部公開するべきだろうと、どういった過程でそれが変更されて、このようになってきているっていうようなことをやっぱり知らせるべきだろうということで、私は個人的にそういうことをやったほうがいいんじゃないですかと、というような問いかけをしました。

ただ、今までの議会のこの委員会の中で、そういった資料の公開だったり、委員会に出された資料の公開であったり、そういったものについてはですよ、委員長の判断、あるいは委員長が委員会に諮られてからのですよ、公開っていうのが原則じゃなかったかと私は思うんですよ。

ただですね、ホームページのほう調べてみましたら、もう既にですね、そういった委員会の

決定もなしにですね、全ての資料がホームページ上にアップされてると。私としては非常にうれしかった部分があります。ただ、議会の組織的な進め方の中では、今までそういうことはなかったかなというふうに思いましたので、そこはどうかというふうに、皆さん方のまた御意見もですね、委員の皆さんの御意見もお伺いしなきゃいけないのかなというふうに思いますけれども、委員長いかがです。

○副委員長（幸村香代子君） はい。今の資料の公開の件ですが、確かに昨日ホームページに全ての資料が公開をされておりました。

その公開について、まず、執行部のほうから御説明があれば。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。御説明といたしますと、公開したことがよいか悪いかという、――。

○副委員長（幸村香代子君） 私もですね、きのうの段階での公開ということは、どういった趣旨でされたのかということをお尋ねしたいんですが。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） そもそも委員会が終わりました後は、1階の情報プラザのほうに資料は全部閲覧できるようにしておりました。

その中でも特に更新があったものについて、既にもう幾つも、過去から情報のほうはホームページのほうに公開しておりましたが、きちっと第何回はこういう話し合いをしたんだよというの、確かに、もともとこの席自体が公開の場ですので、何も隠す必要はないということを出しました。

以上でございます。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

委員の皆さんの御意見というのは、いかがでしょう。

○委員（村上光則君） いいですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、村上委員。

○委員（村上光則君） フォーラムのことでもよかですか。

この前フォーラムをされた中でですね、これはあのメンバーの中でああいう会を設けられたのか。私は、この会員の皆さん方とちょっと話したんですが、私たちを交えて話をするということは、フォーラムを開くということは聞いていませんでしたということが私に返ってきたんですよね。

誰が、執行部は、それは、このフォーラムのことについてはされたんですか。それ、一言聞きたいと。

○副委員長（幸村香代子君） 谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。質問の意図がよくわからなかったんですが。（委員村上光則君「会員さんがおらるっですよ」と呼ぶ）はい。（委員村上光則君「名前を出すといかぬとでしょぼってん、事務局長の名前で私たちに御案内が来ましたよね。御案内が来ましたでしょ」と呼ぶ）（「いや」と呼ぶ者あり）（委員村上光則君「封筒でフォーラムを開きますのでという案内状が来たでしょう。私には間違っ来とっですけどね。代表者に来たでしょ。来てないですか」と呼ぶ）そこは済みません、こちらではわかりません。

○副委員長（幸村香代子君） 村上委員、多分ですね、どういうメンバーを、こう対象に出されたかっていうのは、それはフォーラムの主催者のほうの御判断だったというふうに思うんですよね。

○委員（村上光則君） それは、執行部には話はなかったんですね。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい、よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） 谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。執行部のほうには、その場に来てほしいという依頼書が参りました。

で、何を話すんですかと聞いたら、新聞記事のことについてだということでしたので、内容をわかるようにということで資料をつくって、説明しに行った次第です。次長以下、総勢6名で参りましたが、そういうところです。

○副委員長（幸村香代子君） はい、村上委員。

○委員（村上光則君） はい。私が会員の方と話をしたのがですね、あたたちのメンバーから来てるんですから、これはどういうことですかと、何の話をされるんですかと言ったら、いや、私たちはそういうつもりでこの勉強会を開いとっじゃありませんと。このフォーラムのこのメンバーの中で、八代市のことで勉強しようということこの会はつくっておりますと。それで、議員さんたちにこれが御案内が来てるなんて知りませんって言わしたですよ。（「委員長、よろしいですか、整理してもらっていいですか。庁舎建設とは全然関係ない話だから」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） 村上委員、多分、今の御発言も主催者、フォーラムをですね、主催者される側の、どなたに御案内を出されたかとか、どういう趣旨でという問題はですね、向こうの責任になりますので。（「議事進行」と呼ぶ者あり）（委員村上光則君「はい、だから主催者と執行部は関係ないんですねと。それでよかったですね」と呼ぶ）

○副委員長（幸村香代子君） 谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。我々も依頼があつて出た口ですので、何も関係はございません。

○副委員長（幸村香代子君） はい。それでは、資料の公開についてという中身ですので、そのことについてほかに委員の皆さんから御意見等ありましたら。

増田委員。

○委員（増田一喜君） 新庁舎建設に関する特別委員会を設置する決議案というのがちょっとあるんですけども、その中にですね、後ろのほうにですね、新庁舎建設について周知をして十分な審議を行い、市民に対してその検討の経過と結果の情報公開を行いながら結論を見出していく必要がある。そこで、新庁舎建設の機能、規模、予算など、新庁舎建設に関する諸問題の調査を行う特別委員会13名の委員をもって設置するよう要望するというふうにあつて、これにも情報公開はできるだけやってくれというふうな要望が入ってるから、執行部のほうも隠す必要のない情報であれば出してもいいんじゃないかという気はいたすんですけどね。

○副委員長（幸村香代子君） ほかに委員の皆さんから御意見ございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） ないということ。

はい。やはり、今増田委員のほうがですね、読み上げていただきましたけれども、やっぱりそのところ、情報をですね、積極的に公開していくということについては、やっぱりやらなきゃいけないというふうに思います。

ただ、いろいろな会議の中でですね、これから先も多分市民の皆さんがいろいろな会合を持たれるというふうに思うんです。ただ、そのときにやっぱりどういった資料を出されるかということについては、できましたら、委員長、副委員長のほうにも1度見せていただくと安心するんですけども。

○委員（亀田英雄君） 委員長、思い出した。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（亀田英雄君） 何の話がわからぬだったもんですけん。こん話は私がたしか言いだした話ですよ。で、あのときはですね、会長、会議の次第、会の位置づけがどんなものかという話ばしたとだったですよ。どんな会議であっても、普通にいろいろなことを情報公開していくのかって。あの会をどういうふうに位置づけて行かれたのかという話を私はしたと思う。行ってみれば、私もよくわからぬままに行ってみて、代表の挨拶は、私は何も興味はなかですばってんって話を2回された。その中でいきなり順番を入れかえて、何か話しなせよと言うもんですけん、話をしたと。で、帰ってきて、ずっといろいろされて、返ってきた質問な、特別委員会、何ばしなつとですかってというぐらいの話じゃなかですか。あつて、手前で打ち合わせも何も、議会を、私は呼ばれていたとつて、打ち合わせも何も、何ばしやべれつていう話もなく、そんな会議ですばい。大体主催者のほうが、興味は、主催者の代表が興味も何もなかつていう挨拶をしながら、いきなり話をされて、そこで私は不快だったという話をしたと思うとります。

で、そんな会議に行つて、行政は何もかんも、どのような会議と位置づけか、わからぬでおつて、何もかんも呼ばれたなら行つて、行政が持つとる情報を公開するのかという話を私は一番初めにしたような気のすつとですよ。そんな意味の話ですよ。情報公開、情報公開はいいんだけど、会議の位置づけというものがあると思うという話をしたと。そこからの話やつたというふうにするもんですけん。情報公開はいいとしてもですよ、ある程度、その会の位置づけは何だろうかというつとば、主催者じゃなくて、行政のほうがつかんでから情報は出すような話をしたほうがいいんじゃないかなというふうにしたもんですから、私は提起したことでした。

○副委員長（幸村香代子君） はい、谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。私たちも同じで、出てほしいという依頼を受けまして、先ほどと繰り返しますが、何を話したらいいんでしょうと言つたら、134億になるという記事を読んで、その中身は何でということでお答えしました。その資料が混乱を招く資料とは思っておりません。

要は、78億つていう財政計画上の数字を出すときには、どういうふうを考えてこういう数字を出しました、そして134億はそれがこう動いて、こういう状況の変化に応じて数字が変わつたことによつて、かけたらこの数字になりましたということの説明しましたので混乱を招くような文章ではありません。

あと、情報公開のほうですが、今調べてもらいましたが、混乱を招くちゆう文言はないようです。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） 松村審議員。

○財務部政策調整審議員（松村 浩君） はい。松村でございます。

済みません、ただいまの発言で私で今調べよつまして、文言を1つ見つけたので御報告します。

まず、八代市情報公開条例の中の第7条に、公文書の公開義務というものがありまして、その中に、実施機関は公開請求があつたときは、当該公開請求に係る公文書に次に掲げる条文のいずれかが記録されている場合を除き、公開請求をした者に対し、当該公文書を公開しなければならないとなつてます。

あくまで、これは公開請求があつたときの話つていうことですが、その中の1文の中に、第6号でございますけども、本市の機関及び国等の機関の内部、または相互間における審議、検討、または協議に関する情報であつて、公開することにより率直な意見の交換、も

しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ、または特定の者に不当に利益を与え、もしくは不利益を及ぼすおそれがあるものというのが、確かに文言上入っております。ただしこれは、あくまでも公開の請求があったときということでございますので、先ほど谷脇主幹が言いましたけれども、混乱を招くじゃなくて、説明用の資料だというようなことで、こちらのほうには当たらないというふうに考えております。

○副委員長（幸村香代子君） はい、野崎委員。

○委員（野崎伸也君） はい。調べていただきましてありがとうございます。

情報を公開していくっていう、オープンにですね、透明性を持ってやっていこうっていう話の中で、やっぱ、そういった条例的なものっていうのは決まり事がないわけなんですよ。今言われたように、今、情報公開請求があった場合の条例であって、そういったものが整備されてない中で、各担当の部署に任せていくちゅうところについては、やっぱり少し、私は疑問が残るかなというふうに思います。今後の課題かなというふうに思いますんで、そこによりどころがあるんじゃないかなって、一つは思うんですよ、情報公開条例っていうものしかないんですから。そこによりどころを見つけながら、自分たちの裁量権の中ですら、公開していくちゅうのは非常に疑問が残るところかなというふうに思うんで、今後の課題じゃないかなというふうに私は捉えました。

あと、委員長、よろしいですか、引き続き。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（野崎伸也君） 情報プラザのほうには、委員会があったら逐次公開してますよっていう話でしたんで、それはそれとしていいと思うんですが、さっき、お話をしたのは、執行部と議会のですら、仕組みっていうか、仕方って

いうのが違うのかもしれませんが、私は議員になって以来、そういった委員会の提出資料っていうのは、やはり委員長の判断であったり、委員会の判断があつてからのものっていうふうに思っていましたんで、そこを私が改めるべきか、あるいは執行部とですね、同じような考えを共有すべきか、どっちかなというふうにちょっと思うところなんですけれども。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○財務部政策調整審議員（松村 浩君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） 松村審議員。

○財務部政策調整審議員（松村 浩君） はい。今の野崎委員の御発言に対しましてお答えします。

まず、情報公開条例といいますのは、さきに谷脇主幹が言いましたように、本来、情報は公開しなければならないというのが大前提の中にあります。けれども、行政側が情報を公開しないようなときの場合のために、公開を請求することができる。そのときに出す内容によっては、先ほど言いましたように、不利益を与えるとか、そういった場合は出さなくてもいいよというような規定でございますんで、原則は公開が原則ということで条例の中にもうたっております。

以上です。

○副委員長（幸村香代子君） はい。（委員野崎伸也君「今後もそういうような姿勢でお願いしたいと思います」と呼ぶ）

○副委員長（幸村香代子君） 野崎委員。

○委員（野崎伸也君） はい、以上です。

○副委員長（幸村香代子君） はい、ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） それでは、なければですね、委員会提出資料の公開についてということは終了したいと思います。

次に、本庁方式に対する市の見解について、まず執行部から説明を求めます。

○財務部長（岩本博文君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、岩本財務部長。

○財務部長（岩本博文君） はい。財務部岩本でございます。それでは、座って説明をさせていただきます。

本庁方式についての説明ということで、今回、説明に際しまして、お手元に八代地域市町村合併協議会資料より抜粋というものを差し上げております。これは合併のときに、庁舎の方式を検討した資料なんですけれども、その中でこの本庁方式という部分についての説明を改めてさせていただきたいと思っております。

まず1ページ、合併した場合の庁舎の方式というのは、大きくは本庁方式と分庁方式と総合支所方式があると。分庁と総合支所についての説明は、きょうは省略いたします、本庁方式だけの説明ということで。

本庁方式の中に、イというふうに集中方式、それからロで分散方式。この文章をそのまま読みますけれども、これは合併のときの文ですので、ちょっとその当時のことということで一応、了解、御理解していただければと思っております。

現有序舎の1つを新庁舎とし、そこに全ての組織、機構を配置する。ほかの庁舎は窓口的な機能のみを持たせた支所または出張所とする。ただし、庁舎の規模が本庁として適当でない場合には、新庁舎建設も考えられる。

次に、分散方式というのは、本庁のスペースの関係上、一部の部門を支所に配置するというところで、次の2ページ、3ページに簡単ではありますが示しまして、説明を加えてあります。

2ページの本庁方式、ここの文章で、本庁方式とは、本庁に全ての業務を集中し、支所にお

いては住民に直接かかわりのある業務を行う集中方式という形である。合併したほとんどの地域がこの形式をとっており、本庁の規模などの問題により、支所に本庁の一部門を配置して対応する分散方式を採用しているところもあるということで、2ページに示されておりますのが本庁方式の中の集中方式という分です。

3ページの図というのが、本庁方式の中の分散方式という図です。ここは本庁がありまして、あとスペースの関係とかで、A支所には福祉事務所、B支所には教育委員会を配置すると、こういう形のものも本庁方式であるということで、市の宿題としていただいている市の見解は、ということでございますところであれば、八代市の今の形態は本庁方式であるというところでの説明とさせていただきたいと思っております。

○副委員長（幸村香代子君） はい。今説明がありましたけれども、本件について何か質疑がございますか。

○委員（亀田英雄君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 同じ話ば聞くとですよ、何遍も。最後に部長と主幹の見解の相違があったとは、何が違うたですか。どうぞ。

○財務部長（岩本博文君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） はい。本庁方式の中の基本構想をですね、今の基本構想は集中方式でつくっておりますので、そういうことを主幹は集中方式ですということをやちょっと強調したかったというところで、意見が食い違っているようなところで受けとめられたのかなというふうに思います。

○副委員長（幸村香代子君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） でも、前回の会議は何

日やったかな。12日だいけん、もうそのころ、予算のできとったですもんね、提案される予算がですたい。プロポーザル、今度、基本構想にも、そっちで出しとるもんですけん、そんな話をしとかんばいかんだったちゅう話でしょう。

私たちがいろいろ、分散方式はいかがですか、何でもいかがですかという話をしても、それは受け付けませんよってという趣旨だったんですかね。

私たちは、——済みませんね、ちょっと部長、執行部として集中方式じゃなかんばだめだという思いの中で、今度基本構想をつくるもんだから、あんな話をしとったと。受け入れるつもりはなかったちゅうこつですよね、議会の意向を。だから、あんな話になったんだと感じたんですが、いかがですか。

○財務部長（岩本博文君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） 本庁方式は、このように集中と分散がございますので、あの構想というのは、たたき台ということで提案しております。

たたき台であるということは、いろいろな御意見をいただくところであると思いますので。

（「たたき台で予算」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） はい。よかですか、もう。

○副委員長（幸村香代子君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 予算というものは、たたき台で出すものですか。予算にひっついて、——事前審査になるっでしょうけん。

○副委員長（幸村香代子君） その部分についてはですね。

○委員（亀田英雄君） 考え方です。そんなものでよかですかね。初めて聞きましたが。

答えられぬばよかで、事前審査、——。はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 事前審査の部分で答えられぬっていうなら、答えは要りません。いいです。

○副委員長（幸村香代子君） 委員長からもその部分については、事前審査に係るというふうに思いますので。（委員亀田英雄君「わかりました」と呼ぶ）

○副委員長（幸村香代子君） はい。ほかに何か。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 本庁、これは本庁方式の中で集中方式、分散方式、私はこの間谷脇主幹の説明のほうがわかりやすかったというか。

これをちょっと見てもですね、この分散方式って名前が変わっただけで、余り分庁方式と何ら変わらぬような受けとめ方なんですよ。

実際、その本庁方式の中の、今の例えば、千丁の教育委員会の部分が分散方式に当たりますというのは、あくまでもこう手狭になって、柔軟に対応する部分で行かれたという説明があった、実は市民の方々とか教育関係者の中では、やっぱり千丁に教育委員会があるっていうのが、効率的な問題というよりも、不便だというお話が結構ありよとですよ。

原則、もう本庁の、本庁方式でもこの集中方式ちゅうのが大前提であって、今手狭になってるところで、教育委員会が出てるっていう、その対応の仕方が分散方式っていうとり方でよかつでしょう。

分散方式ありきを余り言うと、余りこう、分庁方式と変わらぬとじゃないとかなって思うもんだけん、この間の部長の説明では柔軟に対応していったるんですよ、それが分散方式なんで

すよっていうふうに私は理解しとっとですけれど、そういう考え方でよかですかね。

○財務部長（岩本博文君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） はい。そのとおりです。

合併のときも、基本原則は集中方式でやって、これからやっぱりずっとしていく中で、庁舎の面積が足りぬようになったようなときは、分散方式も考えながらやっていこうと、そういうのを取り入れておりますので、今、成松委員から言われたような趣旨で今までに来ております。（委員成松由紀夫君「委員長、理解しました」と呼ぶ）（「たたき台だいけんよかったたい」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） どんな方式がいいのか、まだ本庁方式か分庁方式がほしい、みんな共通認識がでけぬ中で、千丁も鏡もまだ使えるんだから、その施設を使って、有効利用して、少しでも本庁の規模を抑えたらどうかっていう話をしたと思う。

みんながまだ、みんなって私も本庁方式の理解が得られなかった、だから本庁方式ですか、分庁方式ですかという議論を随分した。だけん、自分たちの話に、気持ちによかほうの話でそうですって言うたっちゃですたい、今まで積み重ねてきた議論は、あつて、何もならぬじゃなかですか。今のやり方が本庁方式ですよっていうとで、私は部長の説明に納得して、今のやり方、本庁方式でいくなら、本庁方式でもいいんですよと。

ただし、あいたスペース、利用できる部分については、使っていったがいいんじゃないですかというような話をしましたよ。で、多くの議員、何人かの議員さんもです、そんなような発

言をされているっていうのは、認識されてますか。

○財務部長（岩本博文君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） はい、審議の内容は認識しています。（委員亀田英雄君「わかりました」と呼ぶ）

○委員（橋本幸一君） よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） はい。集中方式に今至っている、事実、先ほど成松委員が言ったとおり、やっぱり10年前の合併協議の中で、分科会の中で、やっぱりそこはしっかり議論されてるって私は今理解したんですが、その中で今、この八代の本庁がやはり手狭だから、いや応なしに鏡、千丁という中で、分散方式のやり方をとっているっていうことであるわけですが、これから結局、庁舎建設っていう、50年という一つの流れで見たときですね、やっぱりどうしても集中方式の今の千丁、鏡というのは、15年、20年すれば、もう50年を切ってくる。そういう流れを考えればですね、やはり、これは今、ちゃんと今、集中方式の本庁を、やっぱり庁舎を建てるべきと私は思います。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） きょうはもう見解も何も聞かぬで終わろうかなと思ったんですけども、いろいろと意見が出ておりますので、お互いに見解の相違もあると思いますが、——私はちょうど熊本市のですね、合併当時の関係課、機関をずっととっていました。分庁、本庁じゃあ、式じゃありませんけども、いろんな総合支所的、出張所的というのをですね、機能を十二分に今發揮しているのが熊本市なんです。あとは、参考になれば熊本市の、今、政令市になっ

た機構図をちょっと見ていただければ大変参考になると思うよ。

それは、なぜ今私がそれを言うかといいますと、旧市の場合は今、出張所なんやな。そして、旧郡の場合には支所になってるんですよ。これもはっきりとしなけりゃいけないんですよ、これからは。わかりますか。

そういう中で、いろいろと勉強する、合併の当時を振り返れば振り返るほど、私も走馬灯のように浮かんできますけども、特に橋本委員あたりは首長として、その当時は議論された、市議会の中で議論された首長で、そしてまた最終的には調印をされたあの表紙を今でも私は持っておりますけども、やっぱり合併当時と今を語る中ではですね、ある程度のですね、これはもう歩み寄りの制度じゃありませんけども、どこでどういう分岐点、接点というのをですね、見出していかなければ、今回の本庁にするか分庁にするかっていうのは。

現実的には今、鏡の庁舎、千丁の庁舎をですね、50年スパンって言われますけども、もう今63年でようやくきょう、東京で今、分譲の問題で63年でようやく解体をしようという、そういうですね、50年以上ばっかりなんですよ。100年の体系を見る中でですね、千丁と鏡支所を考えてもらえばいいんです。

50年のスパンじゃないわけですね。そういうことを考えれば、やっぱり、鏡を、どうやって鏡の支所を、どうやって総合的な支所として、——これは今、熊本市は全部、区、出張所は全部、部は全部、そこの出張所に入ってるんですよ。総合支所に全部入っているんですよ。その中で、その小さいところの今の自治区についてはですね、班ごとに職員を配置しているという、そういう熊本市の機構図も少し見ていただければなと思いますので。今回の本庁、分庁についてはですね、もうはっきり言って、今、予算の説明がありましたけども、3月定例会、

予算計上はしてありますので、これについては、この委員会でいろいろと議論するあれじゃないと私はもう思います。私としては、ということで、私はもう以後意見やりません。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） はい。野党というか、いろいろな意見のある方々の中で、私を感じるのが、空きスペースを、支所の空きスペースをこう、利活用していく部分っていう話なんだろうなと思うんですが、例えばですよ、例でいうと、社協の話なんかもですね、実際問題、坂田市政時代に千丁の空きスペースを利活用しようということでお金をかけずに千丁に行って活動されとった。

しかし、福島さんのときに、——あのこと、こうだったんですよ、行政機能は集中させて、福祉機能は分散させようっていう考え方だったのにも関わらず、千丁から本町に持ってきて、そして本町アーケード街のにぎわいの創出だなんていう話をされました。お金もいっぱいかけてやられたですね。今、その辺の基金の内部留保の部分も大分底をついてきたような話になってて、その当時も懸念して、再三、自民党派でそこは指摘をしたんですよ。

じゃあ、社協が本町に行って、本当にあの当時、福島市長にも一般質問で、本当ににぎわいが創出できると思いますかっていうのを再三尋ねて、にぎわうと、前ば通んなったですか議員とかっていう、反問権でいろいろ話もされましたが、実際ですね、地域に本庁機能が、分散、もう何か分散方式って名前が変わっただけだなんていう感が否めぬもんだから、企画にちょっと聞きたいんですけどね、支所が地域振興の拠点って言いよんなるですよ。すると、ワンストップサービスであったり、行革の部分でいうたら、この間もちょっと私は意見言うたと

思うとですけれども、逆行するようなこともあ
ると思う——逆行してるんだらうと私は思うと
ですよね。

今の部分で、本庁の一部が入っていても、
企画の考え方としては大丈夫なんですか、それ
は。

○企画振興部長（福永知規君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 福永企画振興部
長。（「分散方式にしてっていうことですから
ね」と呼ぶ者あり）

○企画振興部長（福永知規君） はい。企画振
興部、福永でございます。

今、質問のありましたところについて、ちょ
っと前の話に戻るところもあると思いますけど
も、地域振興の拠点、あるいは窓口、それから
防災の拠点ということで、支所は位置づけさせ
ていただいて、現在、支所と本庁の業務の分担
を明確にした上で支所の振興ビジョンというの
を各支所つくっていただき、また、住民活動の
まちづくり計画に沿った我々の支所としての後
押しができるような仕組みをつくっておとこ
ろです。

まず、地域振興と申しまして幅が広がるござ
いますけども、やはり、その支所を取り巻く区
域ってというのは、もっとも、もともとの役場の
位置でございますので、インフラの整備が非常
に進んでおりますから、何かをそこで行うとい
うことについては非常に利便性が高いつてこと
だと思えます。

また、それぞれの支所の建物についても、停
電装置とかついておまして、安全の面でも非
常にいいということですから、使いようは非常
に高いと考えております。

地域振興で考えますのはですね、やはりどこ
も課題としては人口が減少しているというのが
非常に大きな問題ですので、それを確保あるい
は減らないようにするということが一番の命題
と考えております。

そのためには、先ほど旧町村で使われており
ました大切な住民の財産である支所を、少なく
とも行政目的プラスアルファ使えば非常にい
い機能が果たせるんじゃないかというふうに期
待しております。

具体的にじゃあどのようなものがあるかとい
うことを今示せと言われても、ちょっと検討中
ということしか言えないんですけど、例えばの
話で申しわけないんですけど、八代市は未利用
財産の活用ということで、合併して、特に学校
関係が、今、急速に空きスペースが出てます
が、その活用ということで、既に2件、1つ
は東陽、河俣小学校の太陽光発電、これは単に
行政目的あるいは住民さんの意思をとというこ
とではなくて、企業さんの営利活動、これをも
との行政資産を活用して行っていると。雇用に直
接的につながってるかという、非常に弱い面
がありますけども、維持管理、メンテなんかの
点では地元の採用をお願いしている。

また、今建設中でございますが、宮地東小学
校、これは、これこそ研修宿泊施設として、福
岡の企業さんが投資をなさって4月にはオー
プンと聞いてますけども、これは地元の方々も非
常に期待をしておられて、その雇用力、あるい
は人口増につながると思われる交流、それにつ
いて住民、市、企業さん、一緒になって活用を
図っているということです。

それから、これは鏡支所についてはですね、
あそこの利点は何かという、道路環境も整備
してあり、それと低地ではあるにしろ3階建て
であるということで、今、3階のフロアが非常
にあいておりますが、これには以前、企業さん
からの申し出も実はあつとりまして、しかしな
がら、あそこですね、セキュリティ、企業
ですからセキュリティ問題があつてですね、
そのセキュリティ問題がクリアできずになく
なったということもあります。そういったこと
もありますので、私たちとしては、行政財産を

ぜひそういった地域振興、雇用や人口増、交流につながるような使い方をさせていただければ大変ありがたいなと思っているところです。

以上です。（「いい説明をしたばい」と呼ぶ者あり）

○委員（成松由紀夫君） はい、委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、成松委員。（「そのとおりだよ」と呼ぶ者あり）

○委員（成松由紀夫君） 本当はですね、その先の、まだ検討中というところの話があって、明確に答えていただければ一番いいんですけども、そこは検討中ということで、そういうことなんだなっていうのはよくわかりました。

第3回か4回るときだったかな、分庁方式の連絡伝達についてとかって資料いただいた経緯もあつとですけども、あくまで本庁方式で合併の部分でもう決まってるから、それでいくというのは理解してるんですが、今度分散方式なるものが出てきたもんだから、その分散方式と分庁方式っちゅうのは、ちょっと名前が変わっただけでっていう感が拭えないので、分散方式の、この間いただいた資料みたいな、分庁方式の資料みたいなところで資料はなかっでしょうけど、検証なり何なりと、あと本庁方式の集中方式と本庁方式の分散方式のメリット、デメリットあたりが、どっちが担当になるのか、わかってるほうが説明をできればしていただければ、ちょっと理解を深めたいかなと思います。

○副委員長（幸村香代子君） はい、谷脇主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。本庁、分庁のやり方のメリット、デメリット、こちらは先日の特別委員会の中でも御説明いたしましたので、そこは同じかと思えます。

実際、私たちのほうで過去にといいいますか、調べてみたこともあるんですが、以前、私がここで、この場で、合志市が分庁方式だったの

が、今、昨年ですかね、本庁方式になりましたよっていうことをお話しました。そのときに調べとったやつがありますんで、ちょっとお答えしますと、合志市は合志庁舎とあと西合志庁舎と2個あって、ここは一応分庁という形をとってるんですが、今ここで話に出てます分散と余り変わらない。要は、合志市のほうに、合志町役場のほうには議会とか市長公室とか、総務とか、企画財政、市民、環境、農林、商工、会計、上下水っちゅうのがあって、もういっちょのほうが入らぬかったけん向こうに行ったということで、福祉、子育て、高齢者、健康づくり、学校教育、生涯学習、人権というのが行っている。ちょうど今、さっき分散で出てきた話の、ちょうど2部ですよ、福祉と教育がありましたので、が行ってる状態です。

それで、当時合志市のほうでいろいろ検証されました。どのくらい2つのことをやりとり、行ったり来たりするのにお金がかかるのかということを検証されまして、で、合志庁舎と西合志庁舎の距離が4.8キロほどございます。うちでいうなら、千丁、八代間、八代本庁と千丁支所までの距離なんですけど、それで当時の人件費の平均額3980円、時間当たりですね、が大体往復で30分ぐらいかかると。1年間そこは調べられまして、——1カ月間調べられまして、1カ月間に大体676回行ったり来たりしているというのをい出して、それが12カ月あるということで、人件費に回数と月をかけて、大体年間に1600万ほど人件費だけでかかると。それにガソリン代、当時はここは180円、リットル当たり180円でされてましたけども、それで大体100万ほどかかるというふうなのが出ております。

それを八代市に置きかえました場合、例えば、本庁と千丁支所、間が5.2キロということで基本構想のたたき台には書いてるかと思えますが、5.2キロ——ほぼ同じと考えまして

往復30分と考えて、大体1年間で人件費が1600万、それにガソリン代がやっぱり100万ってことになります。本庁と鏡支所が大体8.4キロです。8.4キロを時間に直すと大体往復50分ぐらいで、同じく676回動いたとして2600万円、それにガソリン代が170万、トータルで4470万ぐらい、分散化すれば経常的に経費がかかるものというふうに、それプラスの車両も必要になるもんですから、車両代のインシヤルコストとそれの保有に伴います保険とか、車検とか、そういう経費がかかってくるというところで、1回整理はいたしました。

○委員（成松由紀夫君） はい、委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） ということは、やっぱり余り分庁方式と変わらぬで、非効率的だなんていうことしか出てこぬですね、その合志のほうでも検証されたパターンでいくと。そういうふうに理解しときます。

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 分庁方式と変わらぬちゅう話じゃなくてですたい、分庁方式は行政のやり方が全然違うって話だったでしょうが、部長。（「機能が違うたいね。行政機能っていうのが」と呼ぶ者あり）そげんした話だったでしょうが。その辺の、もう一遍話ばしてもろうてよかですか。

分庁方式と分散方式は、——もうあって、今まで、そんなために今まで時間ば使うて話ばしてきたですけん。

○財務部長（岩本博文君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、岩本部長。

○財務部長（岩本博文君） はい。それで、そ

ういう内容が混在化したところで話が進められておりましたので、私としてはちゃんと、今、話されてるのは本庁方式なんですよというところを改めて説明したかったいうところもあります。

本庁方式、合併のとき、やはり随分議論しましたけれども、本庁方式をとって、今のように集中と分散ありますけれども、本庁方式の中での大原則は集中方式であります。

集中方式でいろいろやっていって、ちょっと応用力ができてきたのが分散方式であるというようなところでも話をしたかと思えますけれども、要するにですね、本庁方式のほうがいろいろなバリエーションが考えられて対応ができるというようなことで話をしまして、分庁方式はそこに組織がですね、入ってしまって固定化されてしまって、そして言うなれば、ぼったり動きがとれぬような形にもなってしまうもんですから、そういうことであれば今とってる本庁方式、この中で本庁方式ということ全体に頭にに入れて、そして議論を進めていただければ、非常にこちらとしてもどンドンンドン、分庁という話よりはいいのかなというところで考えてました。（「理解しております」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） だけん、そこまで話ばしてですね、今のやり方が本庁方式なら、私はそれに異論はないということで申し上げてたと思っております。

で、今度の予算に集中方式でっていうことで出されたときのはもう時間の都合で聞かれぬだったんですが、そういう話を聞きましたので、それについてなぜですかと聞きたいんですが、それも事前審査になるということになりますので、その気持ちばですね、なぜ、あって、

あれだけ検討願えんですかという委員の半分、半数の委員がそんな話をするのにですよ、あえてそんなときもう決定しとったごたふうで、感じで。今回また会議をしてもですたい、何をしなければならぬのかで、あとこん次指定された委員会で、そのことを議論する以外、なかつじやなかですか。（「うん、なかなか。もう委員長、進行してください」と呼ぶ者あり）もう、質問のしようがなかですもん。

○委員（古嶋津義君） 委員長、よかですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） はい。前回、きょう御欠席になつとりますが、前垣委員のほうから、新庁舎建設の方向で、また財源としては合併特例債を有効に活用ということで、みんなで協議をして進めていこうというふうにこの前はあったと私は理解しております。

その中で、先ほど亀田委員のほうから、私の出身地であり、鏡に深い愛情を注いでいただいて、あそこですね、鏡に何か持ってきて、利用して、ここは小ぢんまりという話だろうというふうに思いますが、よろしゅうございますか。

そういう中でですね、私も実は議員になってもう24年か5年になりますが、平成3年だから、その前にですね、鏡の庁舎は建てておましてですね、昨年外壁をちょっと修繕したり、エアコンのやりかえ、いろいろやってメンテナンスをしておりますが、もう20、30年近くなると思いますが、あそこに分散しても、将来的にはこっちを2階建てか3階建てにしても、八代をですね、しても、将来的にはまたこっちにせんばんかなという思いでありますので、ここはやっぱり、将来的に見据えて、二重投資にならないようにやっぱり本庁方式でいったのがベストかなというふうには思っております。

それから、もう少し踏み込んでいいのかなと思います、この前、床面積が広か、狭かって言いましたので、その辺のところも早目に少し委員長のほうで進めていただければ幸いです。

以上でございます。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（野崎伸也君） 委員長、よかですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、野崎委員。

○委員（野崎伸也君） はい。今、古嶋委員のちょっと話ば聞いてですね、ちょっと思ってたんですけど、で、質問をちょっとしたいなっていうのがあったです、確認したいなというのがあって、本庁方式でやっていただきたいっていうのは今御意見があったかと思うんですけど、どうもですね、本庁方式っていうのになれば、私の思いですよ、でいけば、最終的にちゅうか、つくってしまったとき、本庁をつくってしまったときに、鏡、千丁、ほかのところに分散してやるやつも全部もう引き取ってしまうというような構想だろうというふうには思うとですよ、今のたたき台からいけば。

そがなったときにですよ、鏡のことば言うて申しわけなかですけど、鏡がですよ、氷川高校がなくなってですよ、非常に寂しい思いをしてきたっていうのが私はあって、やっぱ、商店街がですよ、にぎわいが廃れてきたっていうのも目の当たりにしてきとつとこがあるもんだけですよ、そういった、今あるものをまた抜き取ってですよ、それが果たしてあの地域の振興につながつとかというふうには思うとですたいね。そこら辺のとこば、どぎゃんふうに考えとらすとかなって、整合性ってあるのかなっていうふうには思うんですよ。

私はやっぱり、ちゃんと機能を残して、今よりさらに充実させてですよ、古くはなつたっていうんであれば、それは建てかえも私は検討せ

んばって、私個人はですよ。ずっと残していかなばんちやなかるかって思うとですよ。そこに住んでらす人がいっぱいおるわけであって、そこでにぎわいを創出さすっていうことであれば、中核じゃなかつですかね、支所とかっていうとは、やっぱり。私は、絶対、そやんしていったほうがよかと思うとですけどね。

だって、何か今の本庁方式、本庁方式っていえばですたい、将来的には全部抜き取ってここに持って行って、そやんイメージしかない。今の状況のほうが私は一番ベスト、さらにそれに加えるほうが、まだよりベストって思うとですよ、地域振興のためには。そこはどやんですかね。企画がおらすけん。

○企画振興部長（福永知規君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、福永企画振興部長。

○企画振興部長（福永知規君） はい。まず、箱物としての支所というのがあって、そして機能としての支所があると思います。

機能としての支所は、先ほど申しましたとおり、日常の周辺の方々の窓口の利便性の確保、サービス低下にならないことが合併の前提と条件ですから。それから、防災拠点、この前の台風とか、そういうときでも、やはり支所のメインとなった働きによって、非常に軽減とか、スムーズな後片づけもできた。そこの最後の地域振興のところですけども、ここは先ほど冒頭で申しましたとおり、支所と本庁の役割分担というのを昨年からずっと明確にして、そしてその中で、支所に配置すべき人員というのを出示しておりますので、これが減ることはございませんので、全部っていう御発言にちょっと、もしかしてですね、空になってしまうんじゃないかと思われたんだったならば、支所にはちゃんと人員は配置を今後もいたしますということを申し上げたつもりです。

地域振興については、先ほどの説明とかぶり

ますけども、やはり一番の問題点は雇用、それから、我々、この合併のもう一つの重大命題でありました行財政の効率化、要するに自主財源をどう確保するかということを考えてときにですね、先ほど申しましたような民間企業さんに有償貸し付けというような具体的なことが進んでいけばなということが、私たちの可能性として考えさせていただきたいということです。

以上です。

○副委員長（幸村香代子君） 野崎委員。

○委員（野崎伸也君） はい。何となくじっくりこぬとばってんがですね、福永部長が言われる、言われたのは多分空きスペースがあれば、それは民間に貸して有効利用して、財政をよくしようというような話だと思うとですよ。それと地域振興っていう中でですたい、やっぱり私は地域の人たちのよりどころちゅうと、やっぱり支所だと思うとですよ。やっぱりそういったところで、果たしてそれが地域振興でにぎわいを創出させていくのと合致せぬごた気がすつとですたいね、何となく。今のところ、そやんふうに思ってるっていうことで、思っと思っていただければと思うとですけど、なかなかマッチせぬとですよ、何か、福永さんが言わすとも、部長が言わすともですね、難しいなという思いがある。

○委員（古嶋津義君） いいですか。

○副委員長（幸村香代子君） 古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 野崎委員からも鏡のことを御心配いただいてありがとうございます。

地域振興からいきますとですね、うちの、私の家が鏡支所役場の近くなんですが、近くにはですね、いわゆるお店がたくさんありましてですね、Yマート、あるいはドラッグM、Cモスとかですね、それからDレックスとかたくさん、コンビニも2店ございましてですね、かなり地域振興は、私は支所がなくても潤っているなと思います。特に隣のJAの北部総合支所が

ございますので、そこにも店舗がございまして、かなりにぎわっている模様でありますので、地域振興からは、鏡は御承知のとおり合併の年は1万5000ありまして、今1万4000か3000ぐらいだと思いますが、かなり今、鏡のほうは地域振興的にはほかの市役所でなくて、ほかの企業の盛り上げでちょっと振興しているのかなという思いであります。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） 関連ですが、野崎委員の関連ですけども、ちょっと確認をさせていただきます。

福永企画サイドと財務部なんですけども、今、成松委員からも質問がありましたですね、それを踏まえてなんですけども、私は本庁の中での集中と分散ということで、これは協議会の資料、抜粋のと、岩本部長からいただいたんですけど、企画やったかな、どこかわかりませんが、その中で、総合支所方式の前に分庁がありますけど、分庁というのはほとんど皆さん方がこれだけ議論してきたわけですから、大体わかるんですね、分庁の方式をですね。これはもう書いてある通り一部の部分を各市町村の現存の庁舎に行政機能を振り分けて持たせるということ、これが分庁方式ということははっきりして、法的にもこういうことじゃなきゃいけませんよという谷脇君から説明があったわけですね。

これは総務省の一つの流れだと思うんですけども、そういうことを考える中で、分散というのが今議論をされとる。分散の前で議論されとる、財務部がそういう考えなのか、企画が考えなのか、それとも本庁のほうの中で企画サイドがどこまで中に突っ込んで議論されてるのかということになるんですよ。

というのはなぜかということ、合併当時の協議会で支所、出張所とするということで明記してあるんでしょ、ですね。それをはっきり、これをですね、どういうふうな形にするかというのは、企画サイドは今回の本庁式にすればよ、そこに踏み込んだ中で、機構図はきちっと私はしなければいけないと思うんですよ、並行して。後から考えますよじゃいけないんですよ。それによってから、本庁舎の今のいろいろな面積の問題、機能の問題等々によって変わってくるんじゃないですか。そう思いますよ。

それは福永部長どうですか、私の今の質問に対して。

○企画振興部長（福永知規君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） 福永部長。

○企画振興部長（福永知規君） まず、現在支所5つ置いております。これはこのまま存続をするということが大前提で我々は動いております。また、その支所も含めてですけども、市有の財産、これが空きスペースが出て活用されないという状況は、効率の面からして、やはりこれはちゃんと活用させていただかなくてはならない、こういう原則で動いておるつもりです。

ですから、この本庁の建て方についても、やはりその中でのお話の一つというふうに受けとめさせていただいております。

○委員（山本幸廣君） はい、委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） そうであれば、今の機構図の中でですよ、組織図の中で、いろいろな係なり班なり、そしてまた課なりですよ、検討する中で旧市の場合はどうするんですか。コミュニティを含めて、住民自治を含めて、推進をしとる中でですよ。どうなるんですか、出張所の場合には、今の配置図で、職員の配置図でよろしいんですか。

私たちは旧市ですからいろいろと問題が出て

きますよ。公平さに欠くんじゃないですか、私たち旧市の市民から言わせれば。

それはなぜかといいますと、職員の配置で変わってくるんですよね、出張所と支所の職員の配置で。そしてまた出張所の機能、そしてまた支所の機能、それに職員の配置等々で変わってきますね。そういうことを考えれば、まだまだ十二分に私は審議が必要だと思うんですよ、これは。だけど、今回については3月定例会で一応もう提案してあるわけですので、それについて、それ以上はもう質問しませんが、私はそういうのはひっくるめて、職員の配置、支所、出張所、機能、将来に向かってどのような分散の式をするのかということをしてですね、私は明快にすべきだと思います。

答弁要りません。説明要りません。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 分散方式の部分です、支所周辺の経済効果であったり、活性化効果も含めて、支所周辺地域の方々に心情面での配慮は必要とは思っていますよね。配慮は必要なんですけども、やっぱりあるべき本庁機能に向けた議論の場においては、そこは主たる判断材料にはならぬと思うわけです。

で、今、職員数云々という話も出たんですが、そういう規模、機能の部分の話した中で予算が出てくるというようなところもあるんですが、この間、宿題といいますか、お願いしてました庁舎規模算定ですかね、皆さんにそのところを少し説明いただいて、ひっくるめてまた議論しないとちょっと進まないのかなと思うんですが、委員長。

○副委員長（幸村香代子君） 1点だけ、確認をさせていただきたいということがあるんですけども、今までの皆さんの御意見、またこれまでですね、本庁方式か分庁方式か、この2点について検討をしてきました。しかし、執行部

の説明、また皆さんの御意見をお聞きすると、本庁方式であるということについては御確認いただいでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい。

あと残っているのが、本庁方式の中の集中型であるか、分散型であるかと、この2つが残っているというふうに確認をさせていただいてよろしいですか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

（「委員長、そこは集中方式っていうことが大前提ということではよろしいんじゃないんですか。柔軟に対応する場合は分散方式という、一一」と呼ぶ者あり）（「それは違う、違う、違う、それは完全に違う」と呼ぶ者あり）いや、それは済みません、委員長のほうからですが、いや、それについては、まだ統一的になっていないというふうに、確認がされていないというふうに思っています。分散型という御意見もあるということだと思います。（「2案あるっちゅうことでしょ」と呼ぶ者あり）うん、2案ある、だけん、分庁方式ということはなくなりましたけれども、本庁方式の中の集中型、分散型ということが残っていると思います。

それでよろしいでしょうか。（「はい、異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい、村上委員。

○委員（村上光則君） 今、本庁方式の中の集中と分散ということですが、私は分散のほうにですね、したほうが良いというふうに思いますが。

なぜかという、さっきも橋本委員からもありましたように、あと50年すると人口がどれくらいになつとるですかね。相当減るんですよ。あと25年しても相当減ると思いますよね。人間の少のうなっていくとにですよ、そういう金をかける必要があるんですか。それとも今の支所をちゃんと、できるだけ、鏡が何年か

するといかぬという話でありましたが、そのときはそのときで、財政力をですね、眺めながらつくっていけばよかじやなかですか。

だから、そんなに本庁方式の集中ということは、私はいかかなものかなというふうに思います。

○委員（橋本幸一君） 委員長、よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） これまで集中方式と分散方式というのは、スペース的にやっぱり問題があったからいや応なしに分散方式にやってたっていう自治体が非常に多いっていう、今そういう執行部の話だと思ったんですが、結局そこには、最終的には集中方式に移行していくと。なぜかって、私はそのランニングコストって思うんですね。先ほどあったように、合志だけでも年間にやっぱり1600万、鏡、千丁を利用すれば、試算の中では約5000万、これは毎年毎年同じ経費としてしていくっていう、その部分。それとやっぱりワンストップサービス、そこを考えればですね、やはりこの際、集中方式と私は一本化して進むべきと、これは大切な問題かなと思ったりします。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） ほかに御意見ありませんか。

○委員（橋本隆一君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、橋本委員。

○委員（橋本隆一君） 橋本です。

そして、先回は、私の勉強不足もありまして、イメージとしては分散方式をイメージしていたんですが、先ほどの部長のランニングコストの問題、それから、先日の先輩の、とにかく今回の市庁舎の建設においては、災害に強い、ハード面、ソフト面ですぐ対応できるような市

庁舎が望ましいという、それはもう私も同感です、共感ですし、執行部のほうもそういう説明であったと思いますので、そういうランニングコストの面と災害に強い支所、市庁舎って考えるのは、やっぱり集中方式のほうが一番いいのかなと思います、私はですね。

○副委員長（幸村香代子君） ほかに。

はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） はい。私のほうもですね、やっぱり合併協議の中で書いてありましたように、本庁舎方式と、その中で集中方式をとられてきてた、一部都合により千丁のほうに教育委員会とかを移動されましたけれども、どうせこの際、本庁を建てかえるということは確認されておりますんで、それに合わせてきっちりと、合併の当時に確認されておる本庁方式の集中方式というほうを、今もうやらないと、それこそこれを逃してやったら、財政もなかなか難しくなる、お金もなくなってくると建てかえられなくなってくる可能性が十分ありますから、この際するんであれば、もうそのときの決まりっていうか、経過を追って、本庁方式の、なおかつ集中方式というふうにしたほうがかえっていいのかなと思います。そういう意見でございます。

○副委員長（幸村香代子君） はい、ほかに。友枝委員。

○委員（友枝和明君） 本庁方式の集中方式の中で、先ほど古嶋委員から鏡支所の件でお話があったんですが、千丁支所は平成5年が建設じゃなかったかなと思います。鏡支所よりも少し新しいっていうか、いう支所でもございますし、あそこを千丁、3600平米ぐらいございますし、本庁施設の関係、一部の部分を支所に配置するという分散方式、これをひとつ検討の中に入れていただきたいと私は思っております。

○副委員長（幸村香代子君） ほかに御意見を

述べてらっしゃらない方は。

○委員（矢本善彦君） はい。

○副委員長（幸村香代子君） はい、矢本委員。

○委員（矢本善彦君） 私もやっぱり村上さんの意見と一緒にですね、本庁だけば今、言うならですばってん、これからやっぱり坂本も建てんば、東陽町も建てんば、——。（「町です」と呼ぶ者あり）ごめんなさい、町、ごめんな。やっぱりそんなして支所をば建てていかにゃいかん。その中で余りにもこれにですね、こだわって、人口も減ります、そうすると税収も落ちてきます。そんなのをちっと考えていかんと、私たちが議員におっときは、こやんして建てたばってん、これが負の遺産にならぬごつしてやっとも一つのこういう審議じゃなからうかと思っとるですよ。

私も何回か町内会で説明するのに、そやん、ぬしどま、建つる建つるて言うばってん、俺たちば市民のことは考えとるっとかいって言われました。やっぱり極端に言えば、私は議会は年に4回しかせぬとだけん、千丁でよかと思っとります、議場は。千丁も鏡もあいとります。

（「鏡の議場はもう壊してあります」と呼ぶ者あり）ああ、壊しとつとですか。千丁は物置になつとつとかね。（「いやいや会議室です」と呼ぶ者あり）会議室になつとつと。

そういうにね、もう少しこう、やっぱり、お互いに市民がやっぱり税金払うてこげんした建物が建つとですけん、私たちが確かにいい品物を建てたほうが、よそから視察に来るごた建物、建てよごたつですよ。しかし、我が家の家とば思うてですね、やっぱり考えいかんとですけん、だんだん議員も少なくなっていくでしょう、削減していかないかんとですけん。私は、そこはもう少し市民の見た目で判断していかんと、それはもうよかてこしたことはなかですたい。

人口は減っていきますし、もう60年になったら10万人切つとでしょう。そうすると労働人口はおりません、百姓はTPPで苦しませて、どぎゃんすつとですか、払うもんな。そこばちよつと考えてね、やっぱりしていかんと。私は、5階のた3階にして、そぎゃんした考えでずつとおります。

はい、そういう意見です。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○副委員長（幸村香代子君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） 何か、賛否のような、委員長ですね、意見は意見として各委員はいいんですけども、今、本庁の集中方式とかなんか、たたき台をやられてですね、先ほど来、前回のときの、今の執行部の報告を求めておるわけですね。意見、見解の中で見解をずつといくならば、もとに戻っていくんですね。

予算面で事前にひっかからない態度にいかないかないもんですから、物を言わないというような状況なんですよ、意見を言わないっていう状況なんですよ。ですから、これについてはですね、32年にはもうほとんどの方が御存じのように、今のままでいけば計画的に32年には全部、本庁に集合しなきゃいけないわけでしょう。全部集中、本庁に、32年には移転をして、それから解体をしてから本庁に全部、支所の機能も含めてですよ。

そういうことを考えた中でですね、いろいろと議論すれば議論するほど、じゃあ私は今回の建物についても、78億から134億から110何億になってきました。後から見解が報告あつと思うんですけども、要は、まさに先ほど矢本委員が言われたように、人口は減るは、税収は減ってくるは、伸ぶ可能性は、ほとんどありません。じゃあ、中小企業の問題、そして、ま

た今回は、大企業にすれば法人税の減税をやられる。10%の、はっきり言って消費税、いろいろな要素というのを考えた中で、今、経済はマイナス、近年も含めてでありますけども、地方の自治体が潰れますよという、きのうも、先日も言っていましたよね、毎日のように今、マスコミ報道が。大変な時代に地方の自治体、地方の経済っていうのは冷え込んでいきますよという、そういうのをやはり総合しながら、今、構想の、たたき台の時期なんですよ。だからこそ議論をしないかと。集中的な審議、議論をして、そしてどういう、本庁方式ですか、本庁方式の中でも集中方式にするのか、分散にするのかという中でですね、きちっとした位置づけを私たちはしていかなければ。

やはり、執行部としては議会を軽視をしていけない。我々を執行部としては信頼をしている。そういう中で市民から信頼される議会、市民から信頼できるような行政でですね、あることをですね、市民の方々に問うてください。

それは、市民のアンケートをとる。そしてまた、公聴会をするとかですね、いろいろと市民との対話の中で今こそ構想の時代、構想の時期ですから、そういうことを一緒に考えていきたいと、いけばいいなど、そのように思いますので、委員長、後についての進行を進めてください。

○副委員長（幸村香代子君） はい。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○副委員長（幸村香代子君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） ちょっと誤解を招いちゃいけないんで、あれなんですけど、32年に集合して解体っていう話、解体はないですね。

（「いや、解体はないですよ。解体じゃなかですよ。解体なんか言いません」と呼ぶ者あり）
集合は、——、32年が合併特例債の期限ちゃう話。（「32年に特例債もばってんが、完成

したならば入らないかとでしょう、本庁には、32年には。入らないかとでしょう、799人の面積で計算しとるわけですから」と呼ぶ者あり）だから、それが確認できればそれでいいんですが、32年集合云々よりも、本庁、集中、分散でいったら、お金の話をすれば、やはりランニングコストがこういう部分で出てくるっていうのは、はっきりしてるんで、私は集中方式だと思います。

以上です。

○副委員長（幸村香代子君） はい。（「見解の違いがあるけん、委員長、進めてください」と呼ぶ者あり）まだですね、先ほども申し上げましたとおり、非常に、本庁方式ということでは合意できるんですけども、集中型か分散型かということ、またそれについてはですね、やはり統一的な見解を持ってない、また議論も必要だというお話、そして、今回、事前審査に係るということで、なかなかお金の問題にですね、踏み込めないということもありますので、これは引き続き検討させていただく、この場で協議をしていくということで、御確認いただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい、ではそのように決しました。

では、次に、3点目、基本構想のたたき台が修正されております。それについて説明を求めます。

はい、谷脇財政課主幹。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。それでは、お手元に先だってお届けしております庁舎規模算定（特別委員会指摺試案）というのがあるかと思いますが、こちらのほうについて御説明させていただきます。

こちらは、先日12日の特別委員会で、余りに市民の、市民検討委員会でいろいろと出ました部分についてまで数字を減らしましたことか

ら、その辺を少し見直してみろということを受けまして、出ささせていただきました。

○副委員長（幸村香代子君） 済みません、何か。（「一部資料が、——」と呼ぶ者あり）
（「資料の、おがところは担当箱入っとらぬだったもんだけん、橋本さんがとったもんだけん済みません」と呼ぶ者あり）（「団長だいけん、やらんとしょんなか」と呼ぶ者あり）申しわけない、谷脇主幹、ちょっと待ってください。よろしいですか。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）どうぞ。

○財政課主幹（新庁舎建設担当）（谷脇信博君） はい。こちらのA3判の縦位置のやつでございますが、右端のほうに最初に出しました2万3000、一番右下に書いてございますね、2万3500平米、要は、市民検討委員会の数字をそのまま盛り込んだらこうなりますというのをたたき台。そして、先だって2月の12日に出しました修正案、1万9860平米。で、今回の部分になります。

変わりました部分だけ御説明いたします。

変わりました部分は、行政サービスの機能として付加する機能という部分で、災害拠点機能です。その部分で、前回、仮眠スペースを半分に減らしておりましたが、やはり男女別の部屋で、多分、多分じゃないですが、それで26平米をおおむね見込むということに、もとに戻しました。それと備蓄倉庫のほうも、もとに戻させていただきます。

ずっと目をおろしていただきまして、下のほう、まちづくり拠点機能としまして、多目的スペースにつきましては、最初の構想どおり120平米、市民ロビーのほうも1000平米、市政情報コーナーも10平米、物産展示コーナー10平米、そして、ATMコーナーも12平米に戻し、キッズスペースも20平米に戻すということで、その部分につきましては、最初の構想どおりに戻しましたところ、トータルが2万4

95平米ということになりました。

以上、説明を終わります。

○副委員長（幸村香代子君） 何か御質問等ありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） この資料は、前回、私がお願いしたところなんですけど、防災拠点機能の部分は、しっかり戻してほしい、もうちょっとこの災害対策本部スペースも含めてですね、もうちょっとどうなのかなというのと、あと、市民検討会でもらってる部分が前回ざっくりいったところが、売店食堂を残して少し戻ってはきてるんですけども、そこもですね、しっかり市民の皆様からいただいた声も、もう1回考えとっていただきたいなど。

私は、これが目いっぱいなのかなというところは了解しました。

以上です。

○副委員長（幸村香代子君） はい。ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい、よろしいですね。

以上でですね、本日子定の日程については、全て終了をしましたけれども、ほかに皆さんのところで何かございましたら。（「何もありません」と呼ぶ者あり）（「ありません」と呼ぶ者あり）ありませんか。

○委員（古嶋津義君） 最後に一つ。

○副委員長（幸村香代子君） はい、古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 最後に一つ。

この前、幸村——きょうの委員長、村上委員の欠席の理由がなかったもんですから、よければきょう出席してられますので、お聞かせ願いたいと存じますが、欠席の理由について。

○委員（亀田英雄君） ちょっとよかですか、そんな話なら。

○副委員長（幸村香代子君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） そんな話ならですたい、今、一定のルールば議運でつくったらどうかという話もいただいたんですが、今まで1回1回、そげんな話ば聞きよったんなら、もうずっとさかのぼって聞かんばんとじゃなかですか。いろいろ会議の中、欠席された人間もおどし、悪しき前例ばつくるようにならせんですか。もう、たたき合いになりますよ、そげんした話になっと。（「それはもう前の、——」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） 古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 一言でいいんです。言われない理由があれば、それで結構なんです。（「言わぬでよかったい。理由なんか言う必要なかったい」と呼ぶ者あり）（「全部言う必要なかった、今までそげんごた全然ないもん。議員になってからな、いろいろな人がおらしたばってん、そういうことは一言も言う議員はおらぬだった」と呼ぶ者あり）

○委員（古嶋津義君） はい、じゃあ委員長、最後に。

○副委員長（幸村香代子君） はい、古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 今、村上委員が言ってるのは、言わぬちゃよかったいっていう話で、言われぬとたいちゅうふう理解をしましたので、結構でございます。（「自民党がと言うとらぬもん」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい。それでは、ほかに何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） なければ、次回の委員会開催日程について協議を行いますが、先ほどお話をしたとおり、もうこれから先は回数を重ねてもですね、開会前に、また開会后ということも難しいということもありますので、

定例会で、先日の日程で予定をされている3月7日だったですかね、3月7日に特別委員会が予定をされておりますので、この日を開催するというところでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（幸村香代子君） はい。（「10時ですね」と呼ぶ者あり）はい、10時です。

それでは、以上で本日の委員会の日程は、全部終了いたしました。

これをもって新庁舎建設に関する特別委員会を散会いたします。

（午後2時55分 散会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成28年2月18日

新庁舎建設に関する特別委員会

委員長